

2021年度生態工学会 第3回理事会
日時：2022年2月24日（木）14:00～15:00
場所：オンライン開催（Zoom）

【総務委員会】

2021年度総務委員会活動報告（2月期）

(1) 会員数・賛助会員数について報告があった。

会員数：2022年2月18日現在（カッコ内は2021年10月18日からの増減）
終身会員1名（増減なし）
正会員309名（2名減）
学生会員86名（増減なし）
合計396名（2名減）

賛助会員数：6団体8口

ダイキン工業株式会社(2口)、ホテイ産業研究所(1口)、
宇宙システム開発株式会社（1口）、クリムゾンインタラクティブ(1口)
株式会社荏原製作所（2口）、プライムデリカ株式会社（1口）

(2) 審議事項

- ・下記の推薦について、候補者があればご連絡をいただくこととなった
 - ・令和4年度「日本工学会フェロー」の推薦について（資料1）
 - ・第38回国際生物学賞受賞候補者の推薦について（資料2）
 - ・「第19回（2022年度）日本学術振興会賞受賞候補者」推薦について（資料3）

- ・船田良会長より2022年度生態工学会年次大会について説明がなされ、承認された
なお、開催は2022年6月24日（金）～25日（土）を予定することとなった
(資料4)

(3) 報告事項

- ・下記の報告がなされた
 - ・2月11日に開催された「一般社団法人日本農学会 第5回2022年度総会および日本農学賞選考会」に船田良会長が出席した
 - ・「日本農業工学会2022」に候補者として 白石文秀会員 の推薦を行い、受賞が決定した
 - ・「2022年度 日本農業工学会フェロー」に候補者として 寺添斉会員、伊能利郎会員の推薦を行い、フェローの称号が授与された

以上

【編集委員会】

2021年度編集委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」33巻2号～34巻1号(2021年4月、7月、10月、2022年1月発刊)を発行した(内容:原著論文10、短報2、特別寄稿0、ニュース・企画・報告0、お知らせ、投稿規程、総ページ数122)。なお、2022年1月15日時点での査読・著者修正中の論文は、原著論文1報、短報1報、総合論文1報であり、受理済み原著論文および短報0報である。

また、34巻1号までをJ-STAGE上の電子ジャーナルとして公開した。

種類	2021年度「生態工学」掲載論文一覧			
	第33巻		第34巻	
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	1	4	4	1
短報	1			1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告				

(2) 学会賞の推薦

奨励賞として以下の4件を推薦した。

- ・33巻1号 近赤外線遮光資材下で栽培したワサビ根茎の生育とアリルイソチオシアネート含有量に及ぼす透過光の影響、奥岡佳純ほか
- ・33巻2号 異なる生育ステージにおける葉と郡落レベルで得られた裸麦葉のRGB値に基づいたSPAD値の推定(英文)、劉宇ほか
- ・33巻3号 赤色光へのUV-A、青色光、遠赤色光の付加照射がアオシソの生育と機能性成分に与える影響(英文)、泊由紀子ほか
- ・33巻3号 可視・近赤外分光用小型デバイスを用いた果皮色の異なるトマト果実用予測モデルによる可溶性固形分と酸度の決定(英文)、山岸鈴香ほか

論文賞は該当なしとして報告した。

(3) 審議事項

Express論文の投稿料の件に関して、編集委員会より下記の提案があり、4月1日から運用することが承認された。

前回理事会で投稿料(2万円)の新設が認められたが、この件に対して各大学の事情を調査したところ、即時性を維持しながら審査料の事前徴収することは運用が難しいことが判明した。

そこで投稿料を取るのをやめ、代替策としてExpress論文の掲載料を増額したうえ(現在の掲載料4万+2万)で、「Express論文受付から通常論文受付に変更になる場合がある」と方針を変更する(Expressの可否は数日で著者に返答する)。

以上

【企画委員会】

2021年度企画委員会活動報告（2月期）

下記の報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合2021年大会（合同開催）
日 時：2021年5月30日（日）～6月6日（日）
会 場：オンライン開催
主 催：日本地球惑星科学連合
特記事項：6月6日にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」を開催し、口頭発表4件とポスター発表5件を実施。
- (2) 2021年度生態工学会年次大会（主催）
日 時：2021年6月25日（金）～6月26日（土）
会 場：オンライン開催
参加人数：92名（会員52名、学生会員5名、非会員11名、非会員学生23名）
特記事項：総会、表彰式、受賞者講演、口頭発表セッション、ポスターセッション、オーガナイズドセッション、特別講演会、若手の会、懇親会をオンライン会議方式で実施した。また、タイ国カセサート大学との国際シンポジウム、次世代応援シンポジウム2021を会期中に開催した。なお、一般研究発表セッションの口頭発表は9件、ポスター発表は14件であった。
- (3) 日本マイクログラビティ応用学会 JSMAC-33（関連企画）
日 時：2021年10月14日（木）
会 場：オンライン開催
参加人数：112名（会員52名、学生会員31名、非会員29名）
特記事項：オーガナイズドセッション OS1「宇宙惑星居住科学」（関連学会）
OS1-3 【生態工学会】
宇宙農場における資源循環の重要性と課題について
遠藤良輔（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）、
布施哲人（JAXA宇宙探査イノベーションハブ）、
堀井慎平（ヤンマーエネルギーシステム株式会社 開発部）
OS2 【ECLSSの展望】
OS2-1 「ECLSS関係の全体概要」 桜井 誠人（JAXA）
OS2-2 「将来有人宇宙活動に向けたECLSS研究 ～空気・水再生～」
山崎 千秋，吉岡奈紗，二村聖太郎，平井健太郎，島明日香，桜井
誠人，松本聡，猿渡英樹（JAXA）
OS2-3 「マイクロ・パーシャルグラビティにおける流体现象とECLSS」
松本 聡，猿渡英樹（JAXA）
OS2-4 「有人宇宙活動に必要なエネルギー供給デバイスの検討」
内藤 均（JAXA）
OS2-5 「国際学会での発表から見る海外のECLSS研究開発状況」
島 明日香（JAXA）
※学生からの積極的な質問が後を絶たず、若い人が大いに興味を持っていることが明らかとなった。

(4) 第65回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2021年11月9日（火）～11月12日（金）

会 場：オンライン開催

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～宇宙居住と物質循環～」を実施

- 2H01 「CEEF(Closed Ecology Experiment Facilities)を用いた物質循環閉鎖居住実験」多胡 靖宏（環境科学技術研）
- 2H02 「外皮と高床骨組が同時に即時展開するベースキャンプ」佐藤 淳（東大）
- 2H03 「民間宇宙開発における宇宙服(PLSS)の開発概要」○嶋村 圭史(リーマンサット・プロジェクト)
- 2H04 「宇宙進出に向けたDIGITAL BIOSPHERE（デジタル生物圏）の構築」西原 禎文, 奥原 啓輔（広島大）
- 2H05 「微細藻類を活用した宇宙における資源再生の可能性について」鈴木 健吾（ユージュレナ）
- 2H06 「宇宙居住での物質循環において求められる微生物機能」遠藤 良輔（阪府大）
- 2H07 「宇宙食における昆虫食の必要性ーコオロギパンー」片山 直美（名古屋女子大）
- 2H08 「将来有人宇宙活動に向けたECLSS研究 ～水再生～」吉岡 奈紗, 猿渡 英樹, 松本 聡, 山崎 千秋（JAXA）
- 2H09 「低重力環境下密閉容器内における気液二相流挙動特性に関する数値シミュレーション」千野 祥瑚, 黒瀬 築（東京理科大）, 鈴木 和哉, 坂本 佑介, 降旗 弘城, 桜井 誠人（JAXA）, 上野 一郎（東京理科大）
- 2H10 「階層的な故障順序決定を用いた様々な個数の機器故障への対処順序自動決定」中根 昌克（日大）, 宮嶋 宏行（国際医療福祉大）
- 2H11 「重力を利用した蓄電法の力学」武笠 敏夫, 山田 武（重力再生エネルギー研）
- 2H12 「有人宇宙活動に必要なエネルギー供給デバイスの検討」内藤 均, 三好 航太, 森 綾香, 川瀬 誠, 星野 健（JAXA）
- 2H13 「Hondaの水素技術開発の取組みと宇宙への挑戦」針生 栄次（本田技研）
- 2H14 「耐水性を有するCO2選択的吸収剤によるDAC技術の開発」村上 遼, 川満 日香梨, 内田 彩花, 稲垣 冬彦（神戸学院大）
- 2H15 宇宙用CO2透過膜の研究開発 ○花井 伸彰, 岡田 治, 寺本 正明, 宮田 純弥, 石井 清夏, 藤澤 泰（ルネッサンス・エネルギー・リサーチ）, 桜井 誠人, 山崎 千秋（JAXA）
- 2H16 二酸化炭素還元ー酸素製造タンデム型装置の研究 ○島 明日香, 曾根 理嗣, 桜井 誠人（JAXA）, 中島 裕典（九大）, 井上 光浩, 阿部 孝之（富山大）
- 2H17 将来有人宇宙活動に向けたECLSS研究開発 ～空気再生技術～ ○二村 聖太郎, 山崎 千秋, 島 明日香, 松本 聡, 桜井 誠人, 猿渡 英樹（JAXA）

※若手を中心に熱心な質問が数多く出てECLSSブームを感じさせる。金井宇宙飛行士もほぼ終日聴講しており、今後益々の生態工学、ECLSSブームの盛り上がりを期待します。

(5) 生態工学シンポジウム（主催）

日 時：2022年3月18日

会 場：オンライン開催

テーマ：「食の最新技術、ゲノム編集食品は未来の食卓を変える！」

特記事項：近年、発展著しいゲノム編集技術を利用した食品開発について、3件の講演を実施する予定

「植物オルガネラゲノム編集技術の開発と展望（仮）」

玉川大学 農学部 教授 肥塚信也 先生

「GABA高蓄積ゲノム編集トマトの開発と上市への取り組み」

筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター
センター長 江面 浩 先生
「ゲノム編集育種の活用ーオンデマンドの魚がやってくるー」
京都大学農学研究科 教授 木下政人 先生

上記シンポジウムに対し、理事会では下記の意見があった。

- ・ゲノム編集に対して、学問的な面で様々な視点からの比較をしたシンポジウムを別途に開催するのも良いのでは。

(6) 定例研究会

本年は、賛助会員として新たに入会頂いた企業の方に事業内容を紹介頂くとともに、学会に対する要望など意見交換をすることを目的として実施する。

第1回定例研究会

日 時 : 10月22日 (第2回理事会後)

タイトル: 荏原製作所の会社紹介

演者 : (株) 荏原製作所次世代事業開発推進部 小杉庸平氏

第2回定例研究会

実施無し

(7) その他

2021年7月より、日本マイクログラビティ応用学会から依頼があり、外部編集委員として編集委員会に参加している。これまで、オンラインで3回出席したが、他学会のメンバーと交流できる機会となっている。

以上

生態工学会オンラインシンポジウム
「食の最新技術、ゲノム編集食品は未来の食卓を変える！」

生態工学会オンラインシンポジウムでは、高 GABA トマトや肉厚マダイなど新しい食品を生み出すゲノム編集技術に注目し、第一線でご活躍の先生方に講演をお願いしました。皆さまの今後の研究やお仕事の役に立つと思いますので、ぜひご参加頂きますようお願い申し上げます。

【日時】2022年3月18日(金) 13:30-16:45

【場所】オンライン (Zoom ウェビナー予定)

【主催】生態工学会

【協賛(依頼予定)】(一社)照明学会、植物工場普及振興会、日本雨水資源化システム学会、日本宇宙生物科学会、(一社)日本航空宇宙学会、(公社)日本水産学会、日本農業気象学会、農業食料工学会、農業施設学会、農業情報学会、(一社)農業電化協会、(公財)未来工学研究所、NPO 法人植物工場研究会、植物工場普及振興会、陸上養殖勉強会

【プログラム】(予定)

13:00-13:30	Zoom 接続確認
13:30-13:35	ご挨拶 生態工学会会長 船田 良
13:35-14:25	「植物オルガネラゲノム編集技術の開発と展望(仮)」 玉川大学 農学部 教授 肥塚信也 先生
14:25-15:15	「GABA 高蓄積ゲノム編集トマトの開発と 上市への取り組み」 筑波大学 つくば機能植物イノベーション研究センター センター長 江面 浩 先生
15:15-15:30	休憩
15:30-16:20	「ゲノム編集育種の活用 ーオンデマンドの魚がやってくるー」 京都大学農学研究科 教授 木下政人 先生
16:20-16:40	総合討論
16:40-16:45	ご挨拶 生態工学会企画委員長 寺添 斉

【参加費】

会員 2,000 円(協賛団体会員含む)、一般 4,000 円、学生会員、一般学生 無料

【詳細ホームページ】<http://www.see.gr.jp/event/2022/20220318.html>

【申し込み】

ホームページの参加申込フォームからお申し込みください。

※生態工学会トップページ(<http://www.see.gr.jp/index.html>)からも申し込み頂けます。

【お問合せ】

生態工学会企画委員会：(一財)電力中央研究所 サステナブルシステム研究本部
寺添 斉 (テラゾエヒトシ)

TEL: 070-6568-9767, FAX: 04-7182-2522, E-mail: terazoe@criepi.denken.or.jp

以上

【表彰委員会】

2021 年度表彰委員会活動報告 (2 月期)

2022 年度生態工学会学会賞受賞候補者の選考結果について下記のように報告がなされ、理事会にて受賞が承認された。

(1) 受賞候補者の募集

募集期間：2021 年 4 月 1 日～11 月 30 日 (学会誌, 学会ホームページ)

募集結果：推薦 6 名 (特別功績賞 1 名, 学術賞 1 名, 奨励賞 4 名)

(2) 表彰委員による選考

下記のように決定した。

特別功績賞：北宅 善昭 氏

「宇宙閉鎖生態系での生命維持のための物質循環型植物生産システムの構築」

生態工学会賞(学術賞):遠藤 良輔 氏

「多様な生体情報を利活用した資源循環型物質生産システムの開発」

奨励賞:奥岡 佳純 氏

「近赤外線遮光資材下で栽培したワサビ根茎の生育とアリルイソチオシアネート含有量に及ぼす透過光の影響」

奨励賞:劉 宇 氏

「Assessment of naked barley leaf SPAD values using RGB values under different growth stages at both the leaf and canopy levels」(異なる生育ステージにおける葉と群落レベルで得られた裸麦葉の RGB 値に基づいた SPAD 値の推定)

奨励賞:泊 由紀子 氏

「Effects of Supplemental Irradiation of UV-A, Blue, and Far-red Light with Red Light on the Growth and Functional Components of *Perilla frutescens*」(赤色光への UV-A、青色光、遠赤色光の付加照射がアオシソの生育と機能性成分に与える影響)

奨励賞:山岸 鈴香 氏

「Determination of the Soluble Solid Content and Acidity by Prediction Models for Different Colored Tomato Fruits using a Small Device for Visible and Near-infrared Spectroscopy Analysis」(可視・近赤外分光用小型デバイスを用いた果皮色の異なるトマト果実用予測モデルによる可溶性固形分と酸度の決定)

以上

【広報委員会】

2021年度広報委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

(1) SEE Quick（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2021年4月1日から2022年2月15日までに84回（2075より2158号）の情報提供を行った。円滑なSEE Quickの配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) HPの内容の更新

生態工学会の主催するシンポジウム案内ページなど、適宜コンテンツの更新を行った。今後も会員へ最新の情報を提供できるようホームページ（HP）の更新業務を継続する。

以上

【国際委員会】

2021年度国際委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

(1) これまで交流を保っていたタイの研究者との交流を継続する予定。

(2) 宇宙での生命維持に関連する興味深い文献について、主に「国際宇宙会議」における発表講演から選択して紹介する予定。

以上

【産学連携委員会】

2021年度産学連携委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

本年度は産学連携を活性化させる仕組みづくりの検討を中心に活動した。

《検討内容》

連携先の探索

- ・学会関連・・・アカデミア中心の運営
 - ・同学会内：企業会員との交流、情報交換の場の設定→まずは支部活動の活性化
 - ・他の学会
- ・学会以外の団体
 - ・同業団体・・・研究開発は目的としない
同業者によって組織された団体で、当該業界の親睦、地位・技術の向上、発展などに寄与するための活動を行う
 - ・その他の団体、組織
 - ・資格関連
 - ・技術士会
 - ・技術のエキスパート集団であり、企業に勤める人が多い
 - ・継続的な資質向上に努めることが求められるという観点から、研究開発にも前向き

《その他》

- ・ダイキン工業内の技術士会からの紹介で、技術士会より講演機会をいただけたので、その折に生態工学会の活動内容をPRした。
 - ・受講された設計事務所の方からオフィスに植物工場設置の相談をいただいたので、設置に向けた具体的な取組みを開始した。
 - ・今後、都市農業の新たな切り口として、植物工場の市場拡大に向けた検討を進めていきたい。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2021年度次世代科学社会活性化委員会活動報告（2月期）

下記のように報告がなされた。

- (1) 継続して男女共同参画学協会連絡会の運営委員としての活動を行っている。連絡会内で男女共同参画問題洗い出しWGを宇宙生物科学会と共に進めている。
- (2) 当委員会が開催する「次世代科学社会応援シンポジウム2022」を、生態工学会年次大会にオーガナイズドセッションのひとつとして開催したく準備を進めている。
- (3) 若手の会からの自主的なオーガナイズドセッション企画についても検討中である。
- (4) 本委員会は、日本宇宙生物科学会・科学者生活委員会と協力しあい、世代を超えて話し合える場として「NAGOMU」会を提供し、10月22日より正式に月一度の頻度でこれを始めた。各開催時前には、生態工学会会員各位にお知らせを配信している。

以上

【CELSS 委員会】

2021 年度 CELSS 委員会活動報告（2 月期）

下記のように報告がなされた。

- (1) 日本航空宇宙学会「JSASS宇宙ビジョン2050 2021年度増補版」を作成した。
「人間が定住する月拠点建設へのロードマップ」と題して月の縦孔に生態工学を活用した恒久的月地下基地の建設に関して検討した。日本航空宇宙学会誌に掲載予定である。
- (2) 第65回宇宙科学技術連合講演会（共催）
日 時：2021年11月1日（木）
会 場：オンライン開催
特記事項：オーガナイズドセッション「OS-7-1 JSASS宇宙ビジョン2050増補版」を実施して以下の内容を発表した。
3S02 JSASS宇宙ビジョン2050増補版 一月面基地ー 桜井 誠人, 後藤 大亮 (JAXA), 白坂 成功 (慶応大), 河野 功 (JAXA), 田中 宏明 (防衛大), 上野 誠也 (横国大)
- (3) 日本航空宇宙工業会 (SJAC) 講演会
日 時：2022年2月3日（木）
会 場：日本航空宇宙工業会 (SJAC) 第一&第二会議室
参加者：航空宇宙業界関係者、会場10名程度、リモート50名程度が参加
特記事項：日本航空宇宙工業会 (SJAC) より依頼を受け、日本航空宇宙学会河野会長をはじめ宇宙ビジョン担当者が日本航空宇宙学会 (JSASS) 宇宙ビジョンを発表した月面基地に関して発表した。
- (4) ムーンビレッジ (日本版) (アーキテクチャー分科会)
日 時：2022年1月25日（火）18:00-19:00
会 場：オンライン開催
参加者：6名程度
特記事項：日本版ムーンビレッジのアーキテクチャー検討を行っている。
- (5) Moon Village Association (Architecture分科会)
日 時：2022年1月25日（火）日本時間22時～2時
会 場：オンライン開催
参加者：リモート30名程度が参加
特記事項：日本航空宇宙学会 (JSASS) 宇宙ビジョンを英語にて発表した。

以上

【各支部活動】

2021年度各支部活動報告（2月期）

各支部から下記のように報告がなされた。

【北海道・東北支部】

今後、活動を行っていききたい。

【関東支部】

(1) 今年度の活動

企業会員増強に向け、打診を行うも実績にならず。

(2) 次年度の活動予定

企業会員の増強活動を行う。

【東海支部】

<合同研究発表会>

日時：令和3年11月18日（木）13:00～16:00

場所：オンライン（Zoom ミーティング）

日本農業気象学会東海・北陸支部 日本生物環境工学会東海支部 生態工学会中部支部の合同研究発表会をオンライン形式で開催しました。事務局より提供して頂いた中部支部の会員名簿に登録のある方に開催をお知らせしました。

全体で9題の発表があり、質疑応答を含め、パソコン画面越しではありましたが、有意義な開催でした。発表内容は、「静岡県におけるワサビの夏季育苗の実態調査（静岡県立大、静岡農技研）」、「近赤外光がリーフレタスの生育およびチップバーンの発生に及ぼす影響（豊橋技術科学大学）」のほか、生態工学会中部支部より新たに「物体検出アルゴリズムを用いた茶園設置トラップ捕獲害虫の種同定と個体数計測（沼津高専、農研機構）」という研究テーマで沼津高専の学生の方が発表されました。

【関西支部】

<日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウム開催>

昨年はコロナの影響もあり、中止となりました恒例の日本農業気象学会近畿支部との合同シンポジウムですが、今年は下記のとおりオンラインで開催いたしました。

【日時】12月10日（金） 15:00～16:00

【場所】オンライン開催（Zoom）

【内容】15:00-15:30

「近畿における気候推移と人々の暮らし」

青野靖之（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）

15:30-16:00

「植物工場空調の現状と課題 — 完全人工光型植物工場の空調 —」

伊能利郎（㈱ダイキンアプライドシステムズ）

【参加者】17名

合同シンポジウムの様子



[コメント]

- 短い準備期間ではあったが、例年どおりのメンバーにご参加いただけた。
- 植物工場の講演では大阪府立大学の遠藤先生より、都市農業の今後の展開を図る上でもオフィスへの植物工場設置が有用ではないかのご提案をいただいた。また、後日行った別の団体の講演会でも設計事務所の方からオフィスへの植物工場設置についての同様の相談を受けた。
- 今後、オフィスに広がる WELL 認証※取得への評価や加点の対象にもなることから、今回のシンポジウムを機にウェルネスと都市農業とを融合した新たな切り口で、植物工場の市場拡大に向けた検討を進めていきたい。

※米国の Delos 社が 2014 年に開発した建築物の空間評価システムで、人間工学的な側面の評価だけでなく、その空間で過ごす人間のウェルネスを重視していることが特徴。

【九州・沖縄支部】

- (1) 持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- (2) 継続的な会員募集

以上

【2022 生態工学会年次大会(東京大会) 準備状況】

2022 生態工学会年次大会(東京大会) について、下記のことが確認された。

(1) 概要

現地開催を基本として、感染状況によりオンラインに切り替える形で準備を進めている。そのため、詳細については、変更することもある。なお、昨年引き続きタイの研究者との交流についても、国際委員会を中心に進めていただくこととなった。そのため、現地開催が可能な場合はハイブリッド型(現地+オンライン)での開催を予定。

(2) 大会組織(敬称略)

大会委員長：船田 良

実行委員長：半 智史

実行委員会委員：堀川祥生、小瀬亮太

大会実行委員：寺添 斉(事務局)、遠藤雅人、増田篤稔、田村治美、土肥哲哉、
細井文樹、中根昌克

(3) 開催概要

【日 程】 6月24日(金)、25日(土)

6月25日(金)	6月26日(土)
AM 一般口頭発表セッション PM 総会 表彰式・受賞者講演 特別講演会	AM 一般口頭発表セッション ショートプレゼンテーション PM ポスターセッション 表彰式・閉会式

【会 場】 現地：東京農工大学府中キャンパス(東京都府中市幸町3-5-8)
オンライン：Zoom

【特別講演会】 検討中

【ポスターセッション】 現地：ショートプレゼンテーションを実施(2分/件程度)
オンライン：ブレイクアウトルーム使用

【懇親会】 現地：未定
オンライン：オンライン懇親会を予定

(4) 主要な締め切り一覧

内 容	期 日
オーガナイズドセッション企画案提出	2022年4月4日
一般発表セッション申込み	2022年4月25日
発表論文提出	2022年5月16日
事前参加費振込み	2022年6月10日

以上